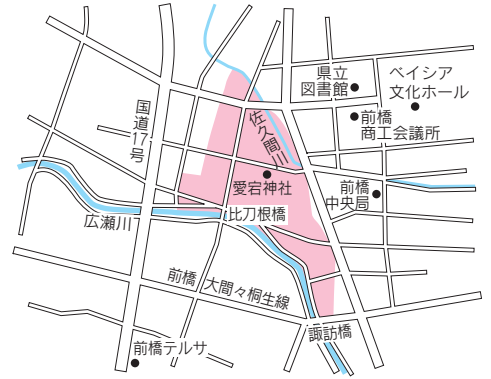


小柳町

Koyanagi-cho



上：愛宕神社
火難・魔除けの神として崇められる
下：かつての柳座（写真中央）
「上州小唄」の発表会はここで行われた



おじいちゃん：今日は小柳町に行ってみよう。

ボ：ク：なんて読むの？

おじいちゃん：「こやなぎちょう」と呼ぶんだよ。

ボ：ク：いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん：明治6年から昭和40年までそう呼ばれていたよ。近世では町人町である広瀬河岸、細ヶ沢新町を明治6年に合併して小柳町となり明治22年に前橋町、明治25年からは前橋市の町名となったんだよ。

ボ：ク：どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん：「直黍夜話」に広瀬川辺りに柳が多かったことからそう呼ばれたとあるよ。小柳町ではないけど、上流には柳原発電所や柳橋もあるね。

ボ：ク：このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん：先日訪れた細ヶ沢町の東側、広瀬川の北側、広瀬川に架かる比刀根橋を北上する小柳町の表通り界隈だね。

ボ：ク：当時の小柳町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：明治の中頃まで小柳町の表通りは、赤城への登山道であり、富士見や才川町へ通じる道として賑わったんだよ。でも、当時は田んぼが多く、農家が散見される程度のものであったんだよ。もちろん電灯もなく、道路も9尺、3メートル弱でそこそこの凸凹道だったんだけど、明治43年の連合共進会が開催されるにあたって電灯もつくようになり、一層賑わいが増したというよ。

ボ：ク：神社仏閣はあるの？

おじいちゃん：愛宕神社があるよ。前橋城主の崇拝するところとなり、庶民の火難・魔除けの神

としてあがめられていたよ。

ボ：ク：先日訪れた細ヶ沢町のように市場はあったの？

おじいちゃん：このまちなにも繭市場が立ち、主に屑繭を中心としていたよ。また、明治30年頃には5月31日から6月9日まで細ヶ沢町と同じように桑市場が開かれていたよ。それから江戸時代には広瀬河岸があったんだ。愛宕神社前の堰付近にあったよ。だが、古い図面を見ると比刀根橋から左に折れ国道17号線に出る手前、北側に行く道辺りに水路があり、広瀬川の水を引き入れたようで、広瀬河岸はここではないかと思うよ。

ボ：ク：なにかこのまちに思い出はあるの？

おじいちゃん：戦災の話で比刀根橋際の防空壕の悲劇があるね。昭和51年4月、ここに追弔碑が建てられたんだよ。また、当時県下屈指の劇場だった柳座があったよ。古くは愛宕座といい、明治21年に創建され、建坪180余坪の芝居小屋だったんだよ。当時有名な人たちが来演していたんだ。昭和4年2月、この柳座で「上州小唄」の発表会が行われ、作詞の野口雨情、作曲の中山晋平が来て、中山晋平の伴奏で佐藤千夜子が唄ったというよ。

ボ：ク：このまちは悲しい思い出や誇れるような施設があったんだね。これからも大切にしていきたいね。

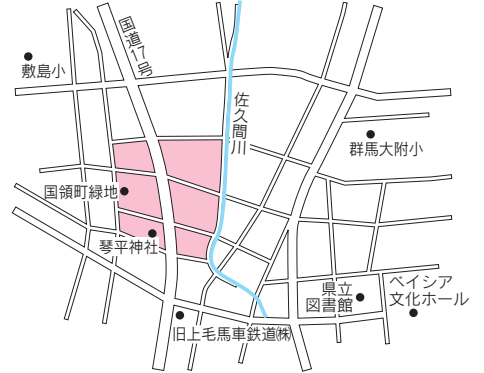
おじいちゃん：そうだね。では、次回は琴平町に行ってみよう。



琴平宮
国道 17 号沿いに山車小屋とともにたたずむ

琴平町

Kotohira-cho



おじいちゃん：今日は琴平町に行ってみよう。

ボク：なんて読むの？

おじいちゃん：「ここのひらちよう」と呼ぶんだよ。

ボク：いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん：昭和3年から昭和40年までそう呼ばれていたよ。もとは先日訪れた岩神町の一部だったんだよ。大正3年、甲と乙の岩神町に二分され、この乙岩神町のうち「字琴平前」と「字河岸北」をもって独立し琴平町となったんだよ。

ボク：このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん：先日訪れた細ヶ沢町西側の国道17号線を挟んだ界限と小柳町東側の飛地界限になるね。

ボク：どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん：まちの中にある琴平宮にちなんで付けられたようだよ。そして代々前橋城主の崇敬のあつい社だったんだ。ところでこの琴平宮が現在地に移されたのが江戸後期のことで、琴平前という字名からかわかるとおり、それ以前は現在地より300mほど北西寄の国領分にあつたこともあり、新町名として琴平町とすることについて当時の国領より抗議があつたという話があるよ。

ボク：当時の琴平町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：このまちは、佐久間川に沿った細長いのかな村だったんだよ。製糸工場があつたり、精米所などもあり水車が回るなど四季の風情を感じさせたというよ。時には、この辺の田んぼに相撲小屋が掛けられ、当時の有力士も来たそうだよ。

ボク：当時の琴平宮の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：琴平宮は長い歴史と共に生きてきた大木に囲まれた静かな憩いの場として庶民の信仰を集め、また旅立ちにあたり道中無

事の安全を祈願する人々が多く、隆盛であつたというよ。江戸期の文化から弘化の頃（17世紀前半）は、毎月九・十兩日、特に十月の大祭には参拝の人々が列をつくり、広瀬川に架かる厩橋を経て細ヶ沢から琴平に通じる道筋には露天店が連なり、遠くは利根、吾妻、新田、佐波（現在の伊勢崎市付近）、多野（現在の藤岡市付近）、甘楽にわたる広い地域から集まり、賑わつたというよ。

ボク：昔は琴平宮を中心にまちは賑わつていたんだね。

おじいちゃん：でも、このまちが発展したきつかけとなつたのは、以前訪れた豎町や国領町、細ヶ沢町と同じく、明治22年、渋川方面へ通じる新道、現在の国道17号線が開通してからなんだよ。ちなみに翌年の明治23年には、前橋停車場（前橋駅）から渋川まで馬車鉄道が開通したんだ。戦後間もない頃まで、現在の住吉町交番の南向かい側のところに、かつての上毛馬車鉄道（株）があり、電車会社とっていったよ。この新道が開通した前後この辺りは、まだ大部分が田や畑で、佐久間川べりの笹藪などにはアヒルが群れをなして、川で泳いでいたりして卵を生みつばなしたつたので、子供がそれを見つけては食べたという話もあるよ。

ボク：のどかなまちだったんだね。現在は国道17号線に色々な店舗が建ち並び変化しているけど、琴平宮はひっそりと鎮座し見守っているように思うので、大切にしていきたいね。

おじいちゃん：そうだね。では、次回は清王寺町に行ってみよう。

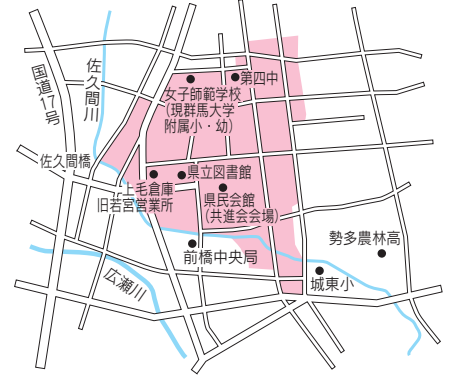
おじいちゃん：そうだね。では、次回は清王寺町に行ってみよう。

清王寺町

Seiouji-machi



上：1府14県連合共進会会場は現在の県民会館に位置した
 右：上毛倉庫若宮営業所のレプリカの台座にはレンガが再利用される



おじいちゃん：今日は清王寺町に行ってみよう。

ボ：ク..なんて読むの？

おじいちゃん：「せいおうじまち」と呼ぶんだよ。

ボ：ク..いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん：江戸期から明治22年まで清王寺村と呼ばれたよ。明治22年から43年まで清王寺という大字名だったんだけど、特に明治22年に前橋町の大字名、明治25年に前橋市の大字名だったんだ。続いて明治43年から昭和40年まで清王寺町と呼ばれていたよ。

ボ：ク..どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん：町名のはっきりとした由来は不明だそう。この地内にあつた寺院の名によるものだとか、また昔この辺りに城というより砦のようなものがあつて、そこに清王寺新井入道という人がいたからとか色々な説があるんだよ。一説では戦に敗れて越後からこの地に来たともいわれるこの人物は箕輪城主である長野業政（なりまさ）の家来だったが、武田軍に攻め滅ぼされたという。かつて本丸を囲み「コ」の字形に幅3間（約5.5m）ほどの堀があり、土手もあつたという。

ボ：ク..このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん：県道前橋赤城線の東側で、以前訪れた栄町と才川町の間の界隈だね。

ボ：ク..当時の清王寺町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：明治43年9月より11月まで開催された「1府14県連合共進会」で今の県民会館

の場所が第一会場となり、水田2万坪が整地されたんだよ。共進会終了後、群馬県師範学校となって戦後に群馬大学に昇格、現在の荒牧へ移転した後に県民会館が建てられたんだよ。周辺には県立図書館、前橋商工会議所会館があり、多くの人々がこの地に集まっているね。他に放送大学や群馬大学附属幼稚園、群馬大学附属小学校があるね。

ボ：ク..周辺に大きな施設とかあつたの？

おじいちゃん：県道前橋赤城線の県民会館入り口の角に明治28年創業の上毛倉庫株式会社が所有するレンガ造りの上毛倉庫があつたね。大正6年に若宮営業所として建設され、大正、昭和、平成の三代にわたり、群馬県の地場産業である繭、生糸の保管倉庫としてその役目を果たしていたんだよ。しかし時代の変化とともに蚕糸産業もその使命を全うし、このレンガ倉庫も平成15年に解体されたんだ。跡地の一角には実際に使われていたレンガを再利用した台座の上に、倉庫を再現したレプリカが設置されてあるね。

ボ：ク..時間が流れてまちは新しくなっていくけど、使われていたレンガを活かして生糸のまちの姿をとどめておく事は大切だと思はるよ。

おじいちゃん：そうだね。では、次回は大塚町・百軒町に行ってみよう。



大塚町・百軒町

Otsuka-machi & Hyakken-machi



上：旧百軒町から旧大塚町方向を臨む
区画整理が進むが昔の面影を残す
右：赤亀橋の謂われを示すプレート
厩橋城の縄張りの伝説を記すプレート

おじいちゃん…今日は大塚町と百軒町に行ってみよう。

ボク…なんて読むの？

おじいちゃん…それぞれ「おおつかまち」、「ひやつけんまち」と呼ぶんだよ。

おじいちゃん…いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん…二つのまちは江戸期から昭和40年の町名だったんだよ。江戸期は前橋城下の武家地の一つで、城下町東端につくられた足軽が住む地区だった。百軒町は近世末期には東西二町に分かれていたが、明治9年に合併したんだ。そして、二つのまちは明治22年前橋町、明治25年前橋市の町名だったんだよ。

ボク…由緒ある町名だったんだね。どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん…大塚町の由来は以前訪れた芳町との境目あたりに大塚山と呼ばれる塚があったことによるようだ。一方、百軒町は江戸期酒井氏の時代、この地の南北に直線的な2本の道があり、その両側にそれぞれ25軒ずつ並び、あわせて100軒の足軽の住居が置かれていたことから足軽町と呼ばれていたが、いつの間にか百軒町と呼ばれるようになったようだ。

おじいちゃん…このまちはどこになるのかなあ？

おじいちゃん…大塚町は以前訪れた芳町の東側と広瀬川と分岐する端気川に挟まれた部分にあつて、百軒町は大塚町の東側で今の前橋赤十字病院の西側に集落があつたそうだよ。今で言う国道50号線と広瀬川、端気川を挟んだ界隈ということになるかな。

おじいちゃん…当時の大塚町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん…幕末の前橋城が再築されたとき、家臣のお屋敷が置かれ、その頃は大塚小路と呼ばれていたそうだ。また、あまり大きな

まちではなく大正6年には47戸しかなかったそうだよ。このまちで忘れてならない人に大沢雅休という人がいるよ。この人は書家、また歌人として前橋市の文壇に大きな足跡を残した人なんだよ。

おじいちゃん…次は当時の百軒町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん…百軒町には尾曳稲荷神社と赤亀橋があるね。ともに太田道灌が厩橋城を築いたという伝説によるもので、ある時、道灌が厩橋城の縄張りを考えていると、そこに一匹の赤い亀が出てきた。その赤亀の尾が描いた見取図がすばらしい縄張であったということから、城の守護神としてこの赤亀を祀ったというよ。今の赤亀橋にその伝説を記すプレートがあるよ。

おじいちゃん…もう一つ高峯院があるよ。もとは以前訪れた立川町にあつて、橋林寺の末寺で1650年に龍怒和尚の開祖になるもので、明治12年火災にあつて再建したが、再び焼失したのち、今の場所に移ったというよ。

また、戦前百軒町といえば先日訪れた才川町と同じく糸のまちだったんだよ。大小多くの製糸工場や撚糸工場があつたが、戦中から大きく変わり、今では落ち着いた住宅地になっているね。

おじいちゃん…今では大きく変わってしまったけど、忘れてならない人がいたり、歴史を感じさせられる神社仏閣があつたりしているの

で大切にしていきたいね。そしてなぜかボクたちに「まえばし」の昔の思い出を伝えてくれるまちだね。

おじいちゃん…そうだね。では、次回は天川町・新町・高田町に行ってみよう。